

令和4年産麦作情報（第4号）

1. 気象の概要（2月1日～2月28日まで）

- ◆平均気温…平年と比べて低い（平年差 -1.2℃）
- ◆降水量は…平年と比べて少ない（平年比 32%）
- ◆日照時間…平年と比べて長い（平年比 109%）

2. 管内麦類の生育状況

▼表1. 農試情報田の調査結果

（調査日：令和4年3月1日）

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況 (平年・平均と比較して)
シロガネコムギ	11/19	本年	27.3	651	6.9	48.4	[気象] 2月10日～2月28日まで ◆平均気温…平年より1.6℃低い ◆日照時間…長い (平年比 121%) ◆降水量…少ない(平年比 44%) [生育] ◆草丈 全品種・全作期とも低い。 ◆茎数 11/19 播種「シロガネコムギ」、12/10 播種の大麦は少ない。 12/9 播種「シロガネコムギ」は平年並み。12/1 播種「サチホゴールデン」は多く、「はるか二条」はやや多い。 ◆葉齢 全品種・全作期とも遅れている。 ◆生育ステージ(次頁参照)
		平年	38.3	755	7.6	43.7	
		平年比(差)	71	86	-0.7	+4.7	
	12/9	本年	16.5	683	5.3	52.6	
平年		23.1	693	6.2	44.3		
平年比(差)		71	99	-0.9	+8.3		
サチホゴールデン	12/1	本年	20.1	1261	6.5	44.5	
		前年	33.3	1084	7.5	43.8	
	12/10	前年比(差)	60	116	-1.0	+0.7	
		本年	16.3	907	5.7	47.4	
12/10	平年	24.1	960	6.6	44.2		
	平年比(差)	68	94	-0.9	+3.2		
はるか二条	12/1	本年	19.1	996	6.3	48.6	
		前年	31.4	962	7.5	47.3	
	12/10	前年比(差)	61	104	-1.2	+1.3	
		本年	16.2	737	5.4	48.4	
12/10	平均	25.9	892	6.5	46.9		
	平年比(差)	63	83	-1.1	+1.5		

▼表 2. 管内情報田の調査結果

(調査日：令和4年2月28日)

調査日	場所	品種名		播種日	苗立ち数 (本/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	主稈 葉数 (L)	備考
2月28日	管内現地 (千代田)	シロガネ コムギ	本年	11月15日	154	22.9	703	6.7	・ 平年より播種期が早い。 ・ 生育は平年より進んでいる。 ・ 幼穂2～3mm程度 ・ 節間長1～2cm程度
			H24～29平均	11月29日	146	12.2	538	6.0	
			6か年比% (差)	(-14)	106	116	131	(+0.7)	
2月28日	管内現地 (吉野ヶ 里)	はる風ふ わり	本年	11月18日	101	22.2	719	7.3	・ 幼穂長2～3mm程度 ・ 節間長2cm程度 ・ ※前年の調査なし
			前年	11月19日	136	-	-	-	
			前年比% (差)	(-1)	74	-	-	-	
2月28日	管内現地 (鳥栖)	はるか二 条	本年	11月20日	112	20.8	569	6.6	・ 2か年 (R2～R3) と比べて、 草丈は低く、莖数は少ない。 ・ 幼穂長5mm程度
			R2-3平均	11月23日	105	29.5	761	7.6	
			2か年比% (差)	(-3)	107	71	75	(-1.0)	

【概況】

- ・ 11月中旬播種の小麦、11月下旬播種の大麦で現在6～7葉期頃となっており、莖立ち期を迎えている。・ 莖立ち期（節間長2cm・草丈約25cm）を迎えている圃場では、麦踏みをするとうえが折れ、穂数減少や耐倒伏性が低下するため麦踏みをせず、土入れを中心とした管理を行う。
- ※一部の圃場では、低温や降雨不足、低pH（酸性障害）などの複合的な要因により、生育不良や葉の黄化・赤変等が見られている。ただし、現時点での対応策がないため、土壌pHが低かった圃場では、次年度以降、麦播種前に土壌診断に基づいた土改材（石灰など）の施用をおこなう。

3. 今後の管理

◆穂肥（～3月上旬頃）

- ・ 降水量の多少により肥料成分の流亡量は変動する。本年麦作期間において、降水量は平年より少ないため（表3参照）、流亡は少ないと考えられる。穂肥の施用量は基準量とする。

▼表3. 本年麦作における降水量積算(mm)

期間	降水量積算(mm)		平年比 (%)
	平年値	本年	
11/11～2/28	249.2	177.0	71
1/1～2/28	129.8	72.5	56

- ・ 散粒機や動散等で全面散布を行う場合は、施用量を1～2割程度増やす。
- ・ 追肥の効果を高めるためには追肥後の土入れ（5葉期以降）が有効である。
- ・ 堆肥等施用で倒伏の恐れがある圃場では穂肥を施用しない。
- ・ ビール大麦「サチホゴールデン」については、品質基準（粗タンパク含量：10.0～11.0%）を満たすため、下記表に基づき穂肥施用を行う。なお、莖立ち期を過ぎた圃場では、倒伏の可能性を鑑み6～7割の施用量に抑える。

▼表4. サチホゴールデンの穂肥診断基準

葉色 (SPAD値)	穂肥 (kg/10a)			
	BB602の場合		硫安の場合	
	水稻跡	大豆跡	水稻跡	大豆跡
45以下	15	10	11	7
46以上	10	施用しない	8	施用しない

◆穂揃期追肥（実肥）（4月上旬頃～）

- ・現時点において小麦の出穂期は4月上旬頃と予想される（別添①麦の出穂期予測を参照）
- ・穂揃期追肥は、出穂期から1週間以内の施用が効果的である。

～穂揃期追肥を適期・適量実施することで目標タンパク値を目指しましょう～

特に、パン用小麦（「さちかおり」「はる風ふわり」「ミナミノカオリ」）では、タンパク含有率はパンの膨らみ等に関わる重要な事項であるため、必ず施用する。

▼表5. 穂揃期追肥の施肥基準目安

品種	穂揃期追肥 kg/10a			
	硫安の場合		尿素の場合	
	前作	水稻跡	大豆跡	水稻跡
さちかおり	30	30	13	13
はる風ふわり	25	25	12	12
ミナミノカオリ	20	20	10	10
チクゴイズミ	10	10	5	5
シロガネコムギ	10	10	5	5

◆土入れ

- ・5葉期以降、土壌が乾燥した状態で行う。
土が湿り、土塊が大きい場合は麦が埋まる可能性がある。
- ・雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に土入れを実施する。
- ・土入れの量は生育初期は少なめに、生育が進むにつれて量を増していく。
- ・播種量が多く苗立ち数が多い圃場では、例年より土入れを1～2回増やして過剰分げつを抑制する。※過剰分げつは、細莖化を招き倒伏に弱くなる。

【土入れの効果】

- ①防寒 ②保肥力増大 ③倒伏防止 ④無効分げつ制御 ⑤雑草防除 ⑥排水促進

◆病害虫防除

●赤かび病防除

- ・赤かび病感染適期は開花期～乳熟期で、高温多雨（20～27℃）で経過すると激発する。
- ・赤かび病防除時期については防除適期を逃さぬよう早めの準備を行う。
（参照：別添①麦の出穂期予測）

【大麦防除時期】

- ・葎殻抽出始め（出穂の約2週間後）に防除。
- ・多発生が予想される場合は2回実施（1回目防除7日後）。
※「はるか二条」「しらゆり二条」については2回防除をおこなう。
- ・トップジンM水和剤を大麦等で使用する場合は、収穫30日前までの使用となっているので注意する。



大麦の葎殻抽出期

【小麦防除時期】

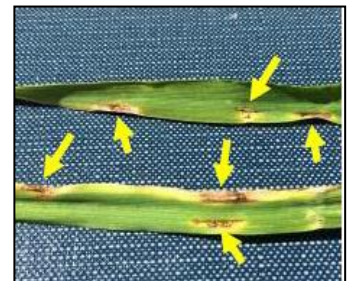
- ・開花最盛期頃（出穂の約7～10日後頃）に防除。
- ・多発生が予想される場合は2回実施（1回目の10～20日後）
※「さちかおり」「はる風ふわり」「ミナミノカオリ」については2回防除をおこなう。



開花期

●網斑病防除（大麦のみ）

- 一部の圃場で 12 月に網斑病の初発が見られたが、現在進展は確認されていない。今後の気温の上昇に伴い病斑の進展が予想されるため留意する。
- 登熟に影響し減収・品質低下の原因となる為、上位葉で病斑の進展が確認される場合は、防除適期にチルト乳剤で防除する。
- 現在の網斑病発生状況については、別添②網斑病定期調査（農業技術防除センター）を参照。



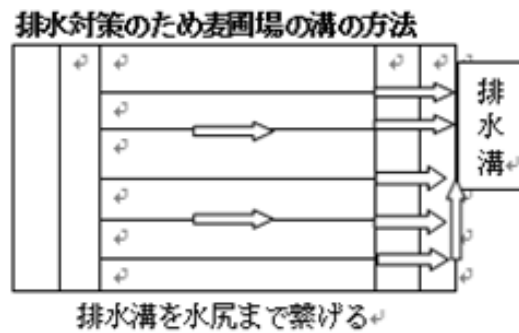
大麦の網斑病

◆排水対策

- 排水対策は分けつの確保や登熟を高めて、収量や品質も向上させる効果がある。
- 土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。
→特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。
- 現在、降雨が少なく推移していると共に、近年は温暖化の影響で局所的な大雨が降ることが多いので必ず排水対策は実施する。



※排水溝に溝を繋げる



◆雑草対策

- 今後、雑草の発生が目立つ圃場では生育期処理剤（茎葉散布）の散布を検討。（下記表参照）
- 【注意】
麦踏み：麦踏前後の除草剤散布は薬害を助長するため避ける。
土入れ：土入れを除草剤散布後に行うと雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので控える（特にステージの進んだ雑草の場合は十分に間隔をあける。）

～麦圃場でよくみられる雑草（広葉）～



ミノフスマ



ミチヤナギ



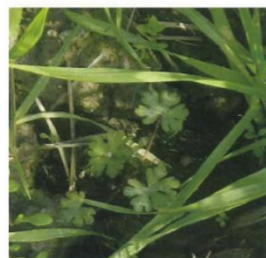
ヤエムグラ



生育当初は、両雑草とも根の色が白色だが、生育が進むとカズノコグサの根は「白色」で、スズメノテッポウの根は「赤褐色」となるため判別可能。



トゲミノキツネノボタン
（農薬メーカー資料から抜粋）



アメリカフウロウ



タデ類 (イヌタデ)

生育期除草剤使用例

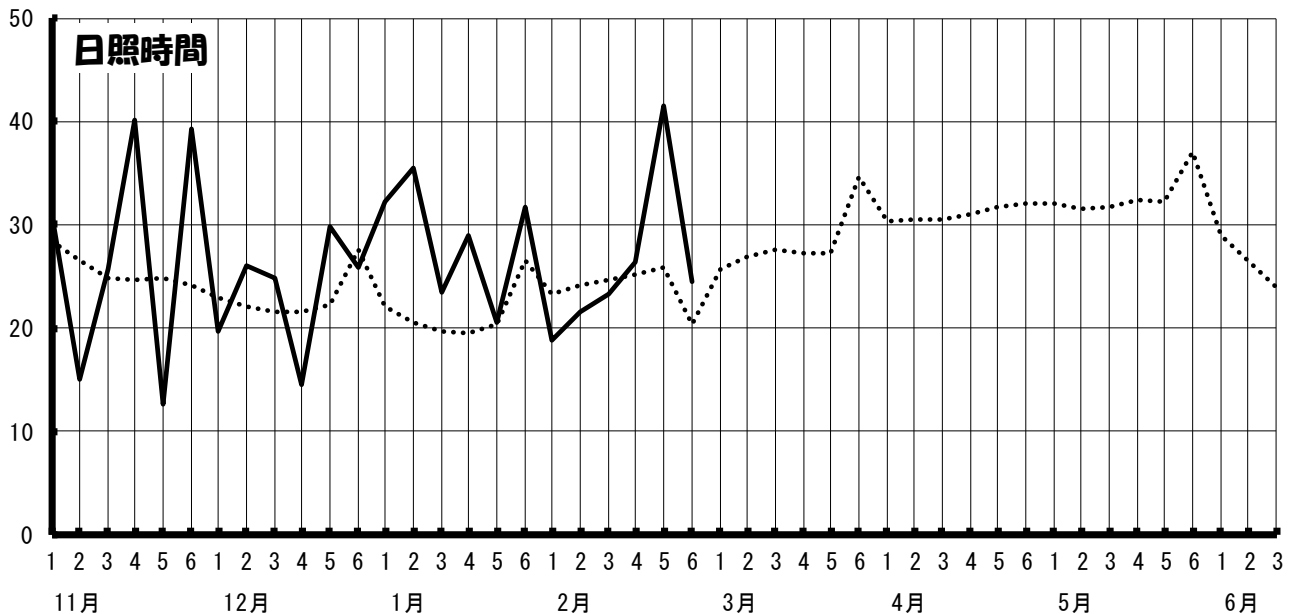
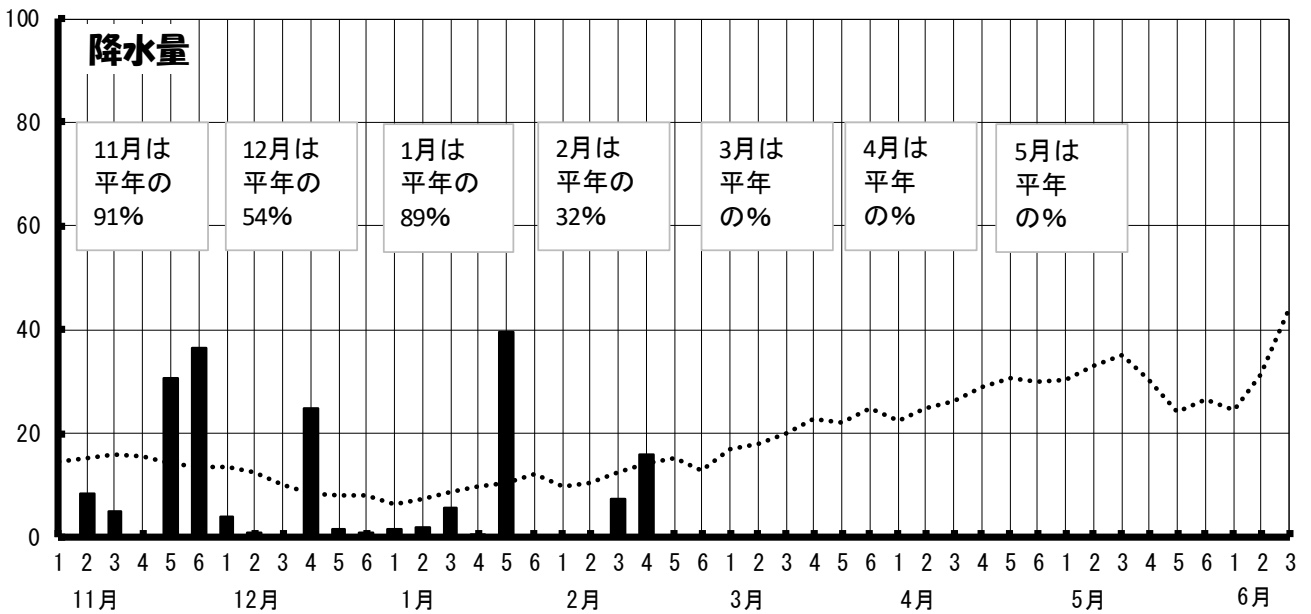
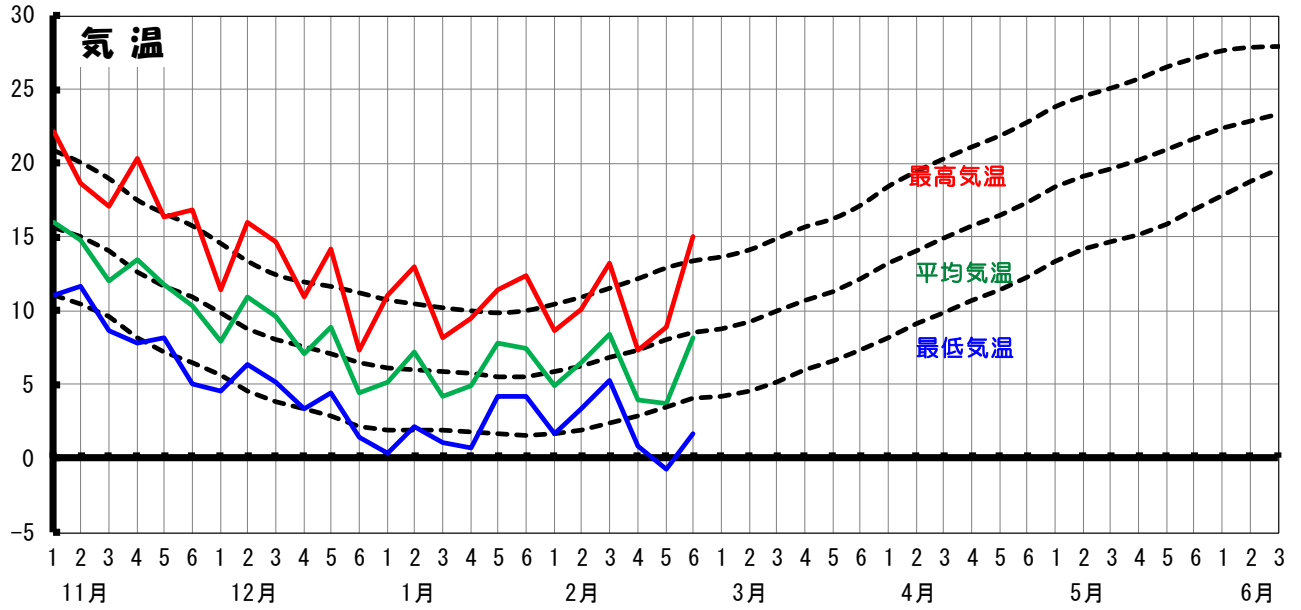
農薬名	有効な雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数
		10a当たり			
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	100～ 200ml	70～ 100L	小麦：収穫 45 日前まで 大麦：収穫 90 日前まで 雑草 3～6 葉期	1 回 以内
アクチノール乳剤	一年生広葉 ・カラスノエンドウ ・ヤエムグラ ・タデ類	100～ 200ml	70～ 100L	麦：穂ばらみ期まで 雑草：生育初期	2 回 以内
※ ハーモニー 75DF 水和剤	イネ科雑草 ・スズメノテッポウ ・カズノコグサ 一年生広葉雑草 ・ミチヤナギ ・タデ類 ・キツネノボタン ・ヤエムグラ ・ナズナ ・ハコベ	5～ 10g	100L	大麦：播種後～節間伸長前まで 小麦：播種後～穂ばらみ期まで 麦収穫 45 日前まで スズメノテッポウ：5 葉期まで カズノコグサ：1～3 葉期まで (※カズノコグサは薬量 10g/10a)	1 回 以内
留意点	<p>※ハーモニー75DF 水和剤使用上の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・播種後にハーモニー細粒剤 F を散布した圃場は使用不可 ・薬害が生じ易いので周辺作物（特にタマネギ）に注意 ・使用器具の洗浄をよくし、他作物との併用はしない ・スズメノテッポウ、カズノコグサには効果が弱い（抑制するが枯死しない） <p>※エコパートフロアブル使用上の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤエムグラに効果は高いが適用時期を過ぎての使用は著しい薬害となるため、節間伸長開始期（節間長 5mm）となっている圃場では散布はしないように留意する。 				

抵抗性をもつ場合は効果が劣る。連用施用には注意。

R4年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

三神農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値

リアルアメダスを用いた小麦の出穂期予測（3月2日時点）

赤かび病防除時期等の今後の管理の参考にしてください。（※あくまで目安です）

別添①

最新予測は右記URLで確認できますので、随時、更新情報を参考にしてください。（出典）http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/meteo_fukuyama/WEB/wheat/index_mugi.html

チクゴイズミ				
播種日	茎立日	出穂期	開花期	成熟期
2021年11月10日	2月5日	4月1日	4月15日	5月24日
(平年値)	(2月8日)	(4月1日)	(4月15日)	(5月24日)
2021年11月15日	2月13日	4月4日	4月17日	5月25日
(平年値)	(2月16日)	(4月3日)	(4月17日)	(5月25日)
2021年11月20日	2月21日	4月5日	4月19日	5月25日
(平年値)	(2月23日)	(4月6日)	(4月19日)	(5月26日)
2021年11月25日	2月28日	4月7日	4月19日	5月26日
(平年値)	(2月28日)	(4月8日)	(4月20日)	(5月26日)
2021年11月30日	3月4日	4月10日	4月21日	5月27日
(平年値)	(3月4日)	(4月9日)	(4月21日)	(5月27日)
2021年12月5日	3月7日	4月11日	4月22日	5月27日
(平年値)	(3月8日)	(4月11日)	(4月22日)	(5月28日)
2021年12月10日	3月11日	4月12日	4月23日	5月28日
(平年値)	(3月12日)	(4月13日)	(4月23日)	(5月29日)
2021年12月15日	3月15日	4月14日	4月25日	5月29日
(平年値)	(3月15日)	(4月14日)	(4月25日)	(5月29日)
2021年12月20日	3月18日	4月16日	4月26日	5月30日
(平年値)	(3月18日)	(4月16日)	(4月26日)	(5月30日)

シロガネコムギ				
播種日	茎立日	出穂期	開花期	成熟期
2021年11月10日	1月30日	3月30日	4月15日	5月18日
(平年値)	(2月4日)	(3月30日)	(4月15日)	(5月19日)
2021年11月15日	2月9日	4月2日	4月17日	5月20日
(平年値)	(2月13日)	(4月3日)	(4月17日)	(5月21日)
2021年11月20日	2月15日	4月5日	4月19日	5月22日
(平年値)	(2月19日)	(4月5日)	(4月19日)	(5月22日)
2021年11月25日	2月25日	4月7日	4月21日	5月24日
(平年値)	(2月25日)	(4月7日)	(4月21日)	(5月23日)
2021年11月30日	3月1日	4月9日	4月22日	5月25日
(平年値)	(3月2日)	(4月10日)	(4月23日)	(5月25日)
2021年12月5日	3月5日	4月11日	4月23日	5月26日
(平年値)	(3月6日)	(4月12日)	(4月23日)	(5月26日)
2021年12月10日	3月10日	4月14日	4月25日	5月27日
(平年値)	(3月10日)	(4月14日)	(4月25日)	(5月27日)
2021年12月15日	3月14日	4月16日	4月26日	5月29日
(平年値)	(3月14日)	(4月16日)	(4月27日)	(5月29日)
2021年12月20日	3月16日	4月17日	4月27日	5月29日
(平年値)	(3月16日)	(4月17日)	(4月27日)	(5月29日)

ミナミノカオリ				
播種日	茎立日	出穂期	開花期	成熟期
2021年11月10日	1月22日	4月3日	4月16日	5月25日
(平年値)	(1月24日)	(4月2日)	(4月15日)	(5月25日)
2021年11月15日	1月30日	4月5日	4月17日	5月26日
(平年値)	(2月5日)	(4月4日)	(4月17日)	(5月26日)
2021年11月20日	2月10日	4月6日	4月18日	5月27日
(平年値)	(2月13日)	(4月7日)	(4月19日)	(5月27日)
2021年11月25日	2月16日	4月9日	4月20日	5月28日
(平年値)	(2月20日)	(4月9日)	(4月20日)	(5月27日)
2021年11月30日	2月25日	4月10日	4月21日	5月28日
(平年値)	(2月25日)	(4月11日)	(4月21日)	(5月28日)
2021年12月5日	2月29日	4月11日	4月21日	5月29日
(平年値)	(3月2日)	(4月12日)	(4月22日)	(5月29日)
2021年12月10日	3月5日	4月13日	4月23日	5月29日
(平年値)	(3月6日)	(4月14日)	(4月23日)	(5月30日)
2021年12月15日	3月9日	4月15日	4月24日	5月30日
(平年値)	(3月9日)	(4月15日)	(4月24日)	(5月30日)
2021年12月20日	3月12日	4月15日	4月25日	5月31日
(平年値)	(3月12日)	(4月15日)	(4月25日)	(5月31日)

大麦定期調査結果（令和4年2月下旬）

調査月日：2月14日～16日		50株調査	
地点名	病害虫名	網斑病 (%)	備考
鳥栖市 1		0	
鳥栖市 2		0	
吉野ヶ里町 1		0	
吉野ヶ里町 2		0	
神崎市千代田町 1		0	
神崎市千代田町 2		2	
佐賀市蓮池町 1		8	
佐賀市蓮池町 2		2	
佐賀市東与賀町 1		0	
佐賀市東与賀町 2		0	
小城市芦刈町 1		0	
小城市芦刈町 2		0	
小城市三日月町 1		0	
小城市三日月町 2		0	
白石町新明 1		0	
白石町新明 2		2	
鹿島市 1		0	
鹿島市 2		0	
多久市 1		0	
多久市 2		0	
武雄市 1		0	
武雄市 2		0	
発生圃場率 (%)		18.2	
平均発生株率 (%)		0.6	
発生率の平年値 [※]		0.6	
(平年比)		並	
発生率の前年値		0.5	

※平年値は平成31年～令和3年までの3年間の値の平均(参考値)